

故 名 誉 員 村 山 喜 一 郎 氏 を 想 う

土木学会名誉員 村山喜一郎氏は昭和37年7月31日忽然としておなくなりになりましたことは、土木工学界にとって、まことに大きな損失であり、特に関西の土木界においては大きな支柱がなくなった感じがいたしまして、ここに深く哀悼の意を表する次第であります。

村山喜一郎氏は明治17年7月20日生まれですから、満79才でその輝かしい土木技術者としての生涯を終えられたことになります。

その御活躍のあとをたどっ * この大役を完遂されました。

その後一時御退官されていましたが、昭和7年再び京都府土木部長として再任され、京都府の土木行政に御努力されました。その頃は中小河川の改修工事や、新設の橋梁工事や、舞鶴港の修築工事等が活発に行なわれましたが、特に京都府の幹線通路改修計画と桂川水系の洛南工業用水計画に力を注がれましたことは非常に大きな功績でありました。

ついで昭和11年に神戸市水道局長に御就任されました。神戸時代の村山さんにとっては2つの大きな問題が occurred。その一つは昭和13年の阪神大水害でありますし、もう一つは昭和14年の大旱魃であります。水道局長として稀有の阪神一帯の旱魃にそう偶され、市民の給水対策へ寝食を忘れて東奔西走された御活躍は、はたのめもお気の毒なくらいでしたが、実に精力的にこの2つの難問題を解決されました。その後公職を御退きになっても、京都、大阪、兵庫、和歌山県等の都市計画地方審議会委員をはじめ数多い各種委員、囑託として、関西の土木界に尽力されました。

このような輝かしい御活躍と御功績を残されましたので、昭和35年には土木学会の名誉員に推挙され、また昭和36年には藍授褒章を授与されました次第であります。晩年の村山さんは後輩の指導や個人的なめんどろを、骨おしみなしに実によくみられました。それこそ慈父の感がいたしました。旧内務省関係の友人の集りに旧交会という会合がありますが、関西では毎月1回会員が集って旧交をあたためているわけですが、村山さんはこの会に出られるのが老後の一つの何よりの楽しみだったらしく、いろいろの御体験談を後輩に話されて、楽しそうでありました。

村山さんの生涯の御足跡をたどりますとまだまだ書きつくせない思い出が沢山ありますが、ここに在りし日のその御温容を偲び、心から御冥福をお祈り申し上げる次第であります。



* てみますと、明治41年7月京都帝国大学工科大学土木工学科を卒業されまして、同年ただちに和歌山県土木工師として社会的活動を始められました。そして和歌山県、福井県、兵庫県、大阪府等の土木課長を歴任され、地方の土木行政に数多くの御立派な業績を残されました。

昭和2年には京都府土木部長に御就任になりましたが、時あたかも御大典の諸準備に忙殺されておりました頃ですから、その御心労はなみ大抵のものではなかったわけですが、無事